

# 令和3年度 第3回校内研究会【2年】 事後研究会 議事録(10/13)

## 1. 校長先生 挨拶

- ・遊びの中で子どもたちが思考する場面が多くあった。
- ・低学年の子どもたちにとってとても大切なこと。

## 2. 授業者より

この単元の学習を楽しみにしている児童が多い。ただの遊びではなく、何か学びがあるように。毎時間素材を使って遊んできた。その4時間目の授業。子どもたち同士の関わりが生まれるように。

## 3. 研究協議

### (Aグループ)

- ・子どもたちが意欲的に活動を進めることができていた。
- ・声かけ、テンポ・リズムなど、全体を通してよかった。
- ・素材の特徴と結びつけながら、遊んでいた。
- ・活動中に子ども同士が対話しながら、試行錯誤して遊んでいた。
- ・ねらいに向かうために、素材と遊びを結び付けて板書されていた。
- ・ICTの使用場面は必然性があった。撮りためていくことで次回以降の活動でも生かせる。

### (Bグループ)

- ・素材を途中で付け足す必然性があったのか。
- ・遊びを交流したあとに、他の子がやっていた遊びをあってみる時間があったのもよかったかも。
- ・交流場面で動画や写真があったのでわかりやすかった。
- ・最後、次回への見通して子どもたちから「つなげたい。」「全部の種類で遊びたい。」という声があがってよかった。
- ・質問。全児童が、他の素材も一通り遊んでいるのか。→遊んでいる。

### (Cグループ)

- ・子どもたちが生き生きと活動していた。
- ・指示が明確だった。
- ・時間配分が難しかった。3分の延長を短くしてもよかった。
- ・素材が加わるタイミングで交流の時間を入れてもよかった。
- ・素材を加えるのはいるのかな？
- ・素材の特徴をもう少しシンプルにしてもよかったのではないかな。
- ・タブレットの操作◎子どもたちの話す姿勢・聞く姿勢◎

#### (Dグループ)

- ・たくさんの素材が十分に用意されていたことで子どもたちの意欲的な活動につながっていた。
- ・作業をする場所の環境設定や、壁面掲示などもよかった。
- ・子どもたちが見通しをもっていたことで、スムーズに活動が進んだ。
- ・教師の声かけによって、遊びだけで終わるのではなく、学習になっていた。
- ・特徴を言語化することによって、振り返りに生かされていた。
- ・教師によるICTの活用がスムーズで的確だった。

#### 4. 指導講評 鍵村指導主事より

- ・特徴を生かすことで、こんな工夫ができたということを大事にする。特徴については深掘りしなくてもよい。
- ・教師の範疇を超える範囲の工夫ができた子はA。予想通りの遊び方をしている子はB。と考えてもらっていい。
- ・やっていくうちに発展する。没頭するうちに気づきが深まる。
- ・教師と子どもの1問1答を子どもたちが気づいて、つないで話していけるように。
- ・それぞれの見方を大事に。
- ・子どもたちがそれぞれ「こんな風に工夫した!」と語れることが大事。
- ・机での仕切りをせずに、全体が見えるように配置してもよかった。
- ・時間が無かったら、素材を組み合わせさせて遊ぶ時間は、次回にするのでなくてもよかったかも。
- ・遊びの調査
- ・子どもたちがたくさん遊ぶ時間を保証していたのが嬉しかった。「もうちょっと遊ぶ?」の声かけもよかった。
- ・どんなふうに特徴をとらえて遊べたかという振り返りのかかせたいなら、それにあっためあてにしてもよかった。
- ・振り返りの定型文をだすことで、振り返りの幅が狭くなってしまうこともある。  
→話形を与えるときは、気を付けてあたえる
- ・振り返り→「今日学んだこと」「頑張ったこと」「次にやりたいこと」を書かせる。

#### 5. 校長先生より 挨拶

- ・子どもたちが思考して、気づきを高めている姿が見られた。
- ・遊びで終わらないように
- ・生活科がどのような教科なのか認識をする。
- ・低学年にとって生活科は大切な教科  
→風は測定可能だが、無風であっても、風が吹く場所があったり、風に音があったり、風に匂いがあったりするように、物事を学問でとらえる事もあれば、感覚でとらえる事もある。それを学ぶのが生活科である。

#### 6. アンケート記入